

統合科目

口腔外科学

[講義] 第3学年 後期 必修 3単位

《担当者名》組織再建口腔外科学分野  
客員教授 / 奥村 一彦 kokumura@

【概要】

口腔外科学に関する系統講義および実習により学んだ知識を整理して説明する。  
卒業試験対策及び国家試験対策として、総まとめを行い合格できる学力に必要な知識について学ぶ。

【全体目的】

口腔外科診療において、安全かつ円滑な診療介助を実践するために必要な知識、態度、技能を学ぶ。

【学修目標】

歯科衛生士として顎・口腔領域の疾患の特徴を説明する。  
顎・口腔領域の疾患の治療に関して、歯科衛生士の業務に必要な知識、態度、技能を説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	卒業試験対策及び国家試験対策1	1. 顎・口腔外科領域における各種疾患、および口腔に関連した全身疾患の病態と治療法について基本的知識を概説できる。 2. 顎・口腔領域の先天異常と発育異常について、症状、原因、および治療法を概説できる。 3. 顎・口腔領域の損傷および機能障害について、症状、原因、および治療法を概説できる。 4. 口腔粘膜の病変について、症状、原因、および治療法を概説できる。 5. 顎・口腔領域の化膿性炎症疾患について、症状、原因、および治療法を概説できる。	奥村 一彦
2	卒業試験対策及び国家試験対策2	6. 顎・口腔領域の嚢胞性疾患について、症状、原因、および治療法を概説できる。 7. 顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患について、症状、原因、および治療法を概説できる。 8. 唾液腺疾患について、症状、原因、および治療法を概説できる。 9. 口腔領域の神経疾患について、症状、原因、および治療法を概説できる。	奥村 一彦
3	卒業試験対策及び国家試験対策3	10. 顎関節疾患について、症状、原因、および治療法を概説できる。 11. 血液疾患と出血性素因について、症状、原因、および治療法を概説できる。 12. 全身疾患に関連する口腔病変について、症状、原因、および治療法を概説できる。 13. 口腔外科診療の診療介助について概説できる。	奥村 一彦

【授業実施形態】

面接授業  
授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

卒業試験 100%

【教科書】

教科書 : 全国歯科衛生士教育協議会 監修 : 最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患—口腔外科・歯科麻酔 第1版 医歯薬出版 東京 2012年

【参考書】

参考書 : 栗田 賢一 編集代表 : SIMPLE TEXT 口腔外科の疾患と治療 第5版 永末書店 京都 2019年

歯科衛生士国試対策集 クインテッセンス出版

**【学修の準備】**

歯科衛生士国試過去問題集で知識を整理し、弱点領域を整理すること(60分)。

学内模擬試験、全国模擬試験を受験した後は、必ず問題を確認して、なぜ正答か、なぜ誤答かを解説できるようにしておく(60分)。

**【実務経験】**

奥村 一彦(歯科医師)

**【実務経験を活かした教育内容】**

口腔外科学は、口腔を構成する組織、器官を含んだ顎顔面領域で発症する疾患を対象として、主に手術療法の対象となる疾患の診断と治療を行って機能的、形態的回復を通じて、患者の全身の健康の維持や回復に寄与する臨床科目である。また、口腔外科学は医学と歯学の共通の場であることから、幅広い実務経験を持った教員が臨床の場ですぐ実践できる手技と理論をもとに講義を行う。